

平成29年3月美馬市議会定例会議事日程（第3号）

平成29年3月9日（木）午前10時開議

日程第 1 会議録署名議員の指名について

日程第 2 市政に対する一般質問

- 日程第 3 議案第 1号 美馬市伝統工芸体験館条例の制定について  
議案第 2号 地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について  
議案第 3号 美馬市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正について  
議案第 4号 美馬市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正について  
議案第 5号 美馬市職員の育児休業等に関する条例の一部改正について  
議案第 6号 美馬市職員の配偶者同行休業に関する条例の一部改正について  
議案第 7号 美馬市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について  
議案第 8号 美馬市特別職の給料の特例に関する条例の一部改正について  
議案第 9号 美馬市職員の給与に関する条例の一部改正について  
議案第10号 美馬市税条例等の一部改正について  
議案第11号 美馬市国民健康保険税条例の一部改正について  
議案第12号 財産の交換、譲与、無償貸付等に関する条例の一部改正について  
議案第13号 美馬市立学校設置条例の一部改正について  
議案第14号 美馬市立幼稚園条例の一部改正について  
議案第15号 美馬市学校給食センター設置条例の一部改正について  
議案第16号 美馬市公民館設置条例の一部改正について  
議案第17号 美馬市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について  
議案第18号 美馬市放課後児童クラブ条例の一部改正について  
議案第19号 美馬市立認定こども園条例の一部改正について  
議案第20号 美馬市国民健康保険条例の一部改正について  
議案第21号 美馬市介護保険条例の一部改正について

- 議案第22号 美馬市の環境美化の推進に関する条例の一部改正について
- 議案第23号 美馬市農山村研修集会施設等の設置及び管理に関する条例の一部改正について
- 議案第24号 美馬市農業集落排水処理施設条例の一部改正について
- 議案第25号 美馬市工場立地法地域準則条例の一部改正について
- 議案第26号 美馬市事業所等設置奨励条例の一部改正について
- 議案第27号 吉田家住宅設置条例の一部改正について
- 議案第28号 美馬市消費生活センター条例の一部改正について
- 議案第29号 美馬市木屋平交流施設条例の一部改正について
- 議案第30号 美馬市児童館条例の廃止について
- 議案第31号 美馬市産業センター条例の廃止について
- 議案第37号 平成29年度美馬市一般会計予算
- 議案第38号 平成29年度美馬市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算
- 議案第39号 平成29年度美馬市国民健康保険特別会計予算
- 議案第40号 平成29年度美馬市後期高齢者医療特別会計予算
- 議案第41号 平成29年度美馬市介護保険特別会計予算
- 議案第42号 平成29年度美馬市公共下水道事業特別会計予算
- 議案第43号 平成29年度美馬市農業集落排水事業特別会計予算
- 議案第44号 平成29年度美馬市一の森ヒュッテ事業特別会計予算
- 議案第45号 平成29年度美馬市簡易水道事業特別会計予算
- 議案第46号 平成29年度美馬市小水力発電事業特別会計予算
- 議案第47号 平成29年度美馬市水道事業会計予算
- 議案第48号 平成29年度美馬市工業用水道事業会計予算
- 議案第49号 財産の無償譲渡について
- 議案第50号 市道路線の認定について
- 議案第51号 市道路線の変更について
- 議案第52号 市道路線の廃止について
- 議案第53号 美馬市観光文化資料館の指定管理者の指定期間の変更について
- 議案第54号 美馬市伝統工芸体験館の指定管理者の指定について
- 議案第55号 美馬市農山村研修集会施設等の指定管理者の指定について
- 議案第56号 美馬市農林産物加工施設等の指定管理者の指定について
- 議案第57号 重清北交流促進簡易宿泊施設の指定管理者の指定について
- 議案第59号 債権の放棄について
- 議案第60号 相互救済事業の委託について
- 議案第64号 平成28年度美馬市一般会計補正予算（第5号）

平成29年3月美馬市議会定例会会議録(第3号)

---

◎ 招集年月日 平成29年3月9日

---

◎ 招集場所 美馬市議会議場

---

◎ 開 議 午前10時00分

---

◎ 出席議員

1番	藤野 克彦	2番	浪越 憲一	3番	都築 正文
4番	田中 義美	5番	中川 重文	6番	林 茂
7番	武田 喜善	8番	郷司千亜紀	10番	井川 英秋
11番	西村 昌義	12番	国見 一	13番	久保田哲生
14番	片岡 栄一	15番	原 政義	16番	川西 仁
17番	三宅 共	18番	谷 明美	19番	前田 良平
20番	武田 保幸				

---

◎ 欠席議員

なし

---

◎ 地方自治法第121条の規定により説明のために出席した者の職氏名

市長	藤田 元治
副市長	栗栖 昭雄
政策監(企画総務部長)	加美 一成
地方創生推進総局長	上谷 敏也
保険福祉部長	平井 佳史
市民環境部長	佐藤 充生
経済建設部長	奥村 敏彦
水道部長	武田 光男
プロジェクト推進総局長	四宮 明
消防長	武田 浩二
保険福祉部理事	川口 種満
経済建設部理事	山田 一弘
プロジェクト推進総局理事	矢田 孝志
木屋平総合支所長	江口 文之
企画総務部秘書課長	住友 礼子
企画総務部企画政策課長	西野 佳久
会計管理者	井関 敏秀

代表監査委員	松家 忠秀
教育長	光山 利幸
副教育長	緒方 利春
理事（文化・スポーツ課長）	中川 貴志

---

◎ 本会議に職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	岡 建樹
議会事務局次長	南 佳幸
議会事務局次長補佐	三好 明美

---

◎ 議事日程

議長は、議事日程を別紙のとおり報告した。

---

◎ 会議録署名議員の氏名

議長は会議録署名議員に次の3名を指名した。

17番	三宅 共	議員
18番	谷 明美	議員
19番	前田 良平	議員

開議 午前10時00分

◎議長（久保田哲生議員）

皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員は全員であります。定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元にご配付の日程表のとおりでありますので、よろしく願いをいたします。

これより、本日の日程に入ります。

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により、17番 三宅 共君、18番 谷 明美君、19番 前田良平君を指名いたします。

次に、日程第2、市政に対する一般質問を昨日に引き続き行います。

通告の順序に従いまして発言を許可いたします。

初めに、議席番号20番、武田保幸君。

◎20番（武田保幸議員）

20番。

◎議長（久保田哲生議員）

20番、武田保幸君。

[20番 武田保幸議員 登壇]

◎20番（武田保幸議員）

おはようございます。議長の許可をいただきましたので、通告に従いまして、質問させていただきます。

私が予定しております質問は、山間部の側溝などの土砂撤去でございます。国道492号及び県道254号田方穴吹線の改良促進について、穴吹川を利用した観光振興、周辺対策事業、3件であります。

順次、質問してまいりますので、よろしく願いをいたします。

質問してまいります。

まず、第1点といたしまして、山間部の側溝などの土砂の撤去についてお伺いをいたします。

ご承知のように、高齢化、過疎化によりまして山間部では高齢者のみの世帯やひとり暮らしの世帯の人が、戸数が10戸に満たないのに集落が一つ、一桁の住民しかいない集落もあります。

こういう集落では、わずか人数が1人、1日かかりまして道路脇の草刈りや、側溝、水路などの清掃を行っております。

地域を支える若い人が減ったため、これまでに地域の共同作業として行っております市道や農林道などの生活道を維持管理することが大変難しくなっている状態でございます。

こうした生活道は災害時の避難路となることから、そのまま放置すれば集中豪雨や台風などの際には市道水路、側溝や暗渠にたまっている土砂が排水の妨げになり、山から雨が

道路にあふれる路肩崩壊や土砂崩れなどの大きな被害の原因となっております。そのために市道などの道路側溝にたまった土砂を取り除き、豪雨の際の道路の冠水や浸水被害を防ぐための効果的な支援策を早急に進めたいと思っておるわけでございます。

そこで、こうした現状を市としてはどの程度、把握しておられるのか、また身近な生活道を維持、管理するための支援策についてどのような考えでおられるのかお伺いをいたします。

2点目といたしまして、国道492号及び県道254号田方穴吹線の改良促進についてお伺いをいたします。

国道492号は、穴吹町穴吹から木屋平川井までの美馬市南部地域を南北に走る重要線であります。主要地方道から国道昇格へ20年余り経過しておりますが、なかなか改良が進まず、いまだに多くの未改良地域があるわけでございます。

未改良区間には山腹の崩壊や落石の危険箇所が多くあり、このままでは大規模災害へ備え、危ない状態であります。この国道は被害発生時における緊急避難経路につながっているわけでありまして、命をつなぐ道として、今後ますます重要性を増していくと考えております。

一方、穴吹口山地区の国道、対岸に県道254号いわゆる田方穴吹線が穴吹川を挟む形で並行しておりますが、現在多くの区間が通行できなくなるような状態であります。この県道が全線で整備され、一般車両の通行が可能になれば、被害時の行動の迂回路として、さらに穴吹川を利用して、観光資源としても大いに有益ではないかと考えております。

市としては、国道492号、県道254号田方穴吹線の改良促進を国や県にどのように働きかけていくのか、お伺いをいたします。

3点目といたしまして、穴吹川を利用して観光振興と周辺対策についてお伺いをいたします。

穴吹川は日本一の清流として全国に名を知られ、年間約15万人の観光客が訪れ、沢山のキャンプ客や川遊びの家族連れなどでにぎわっています。

こうした中、美馬市では昨年より滞在型観光の推進を図るため、穴吹川～剣山滞在型観光推進事業を進められております。

この中で、美馬市玄関口であります穴吹駅のキヨスクが撤退し、場所を借り受け、改修し、観光情報発信センターへの準備をすると伺っておりますが、現在、状況として、来年度以降の事業計画についてお聞きをいたしたいと思うわけでございます。

次に、穴吹川の周辺対策についてお伺いをいたします。

穴吹川には年間約15万人が訪れていますが、その大半が夏場のシーズンに集中しております。ともに7月、8月の駐車場不足から、国道492号には違法駐車する車が数多く見られ、通行の安全にも支障があります。

これを受けまして、平成26年、中野宮地区、宮内地区に市営観光駐車場を設置していただいて、違法駐車も幾分減りましたが、穴吹川周辺の駐車場対策として、まだ十分ではないように思います。

そこで、先ほど国道492号の迂回路として、整備を要望いたしました県道田方穴吹線

の沿線に駐車場として利用できる場所はないのか調査をしていただき、適切な場所があれば、整備を検討していただきたいと思います。

こうした対策により、穴吹川周辺のさらなる観光振興と国道492号のより一層の交通安全向上につながるものと考えていますので、市の考えをお聞かせ願いたいと思います。

以上、質問とさせていただきますので、ご答弁のほどよろしくお願いをいたします。

◎市長（藤田元治君）

議長、市長。

◎議長（久保田哲生議員）

藤田市長。

[市長 藤田元治君 登壇]

◎市長（藤田元治君）

皆さん、おはようございます。

20番、武田保幸議員の一般質問の中で、私からは穴吹川を利用した観光振興と周辺対策について、順次お答えをさせていただきます。

まず、穴吹川を拠点とした観光振興についてのご質問でございますが、本市におきましては日本一の水質を誇る穴吹川から日本百名山の一つでもあり、西日本第2の高峰剣山への周遊観光ルートの魅力の向上、情報発信等を行い、滞在型観光への転換を図るため、今年度より地方創生交付金を活用し、穴吹川～剣山滞在型観光推進事業に取り組んでおります。

この事業の一環といたしまして、美馬市の玄関口でございますJR穴吹駅のキヨスクの跡を活用し、観光情報発信センターへと改装するものでございます。

進捗状況でございますが、現在、にし阿波～剣山・吉野川観光圏のイメージにあった観光情報発信センターの外観デザインや内装デザイン、看板デザインの設計を行っております。

来年度以降の事業計画についてでございますが、作成をしましたデザインをもとに、平成29年度の設計業務と整備工事を行う予定としております。

次に、穴吹川の周辺対策、特に県道田方穴吹線周辺に駐車場としての適地はないかのご質問でございますが、先にも申し述べましたところでございますが、穴吹川を活用した観光振興、穴吹川には先ほど議員ご指摘のとおり、6月、7月、8月の約3か月間で15万人の方々の方が川遊びを楽しむためにお越しをいただいております。

また、ブルーヴィラあなぶきを核とした観光振興のためには、議員ご指摘のとおり、駐車場の整備は必要不可欠と考えております。

県道田方穴吹線周辺は、急傾斜地が多く、その候補地はおのずと限られてまいりますが、早急に現地調査を行い、整備を検討してまいりたいと考えております。

◎経済建設部長（奥村敏彦君）

議長、経済建設部長。

◎議長（久保田哲生議員）

経済建設部長、奥村敏彦君。

◎経済建設部長（奥村敏彦君）

私からは、山間部の側溝等の土砂の撤去促進について及び国道492号田方穴吹線の改良促進についてお答えをさせていただきます。

まず、山間部の側溝等の土砂の撤去促進についてのご質問でございますが、現在、美馬市が管理をいたしております市道は2,015路線ありまして、総延長は約1,250キロメートルとなっておりますが、全ての路線を管理することは容易でなく、特に山間部では管理の行き届いていない市道もございます。

議員ご指摘のとおり、側溝の埋塞や暗渠等の閉塞は、災害時の路肩崩壊や土砂崩れの原因となりますので、道路の被災を未然に防止するためにも日頃の維持管理が重要であると考えております。

特に、山間部においては落石や倒木、崖崩れなど通行に支障をきたす事案も見受けられますので、住民の皆様からご連絡をいただいた場合は現地確認を行い、道路作業員若しくは建設業者による撤去等の対応をしているところでございます。

しかしながら、厳しい財政状況の中での維持管理体制となっており、全ての路線まで管理が行き届いていないのが実情でございます。

そうした中、住民の皆様には一斉清掃活動や道路愛護作業において、草刈り奉仕にとどまらず道路側溝の浚渫など、大変ご苦勞をおかけをしているところでございます。

山間部の過疎化や高齢化の進む中、大変なご負担をおかけしていることは十分、承知しておりますが、自治会からの側溝清掃や土砂の撤去要望は年々増加傾向にあり、限られた予算の中、市といたしましても対応に大変苦慮しているところでございます。

こうした状況ではございますが、戸数が少なく、高齢者のみ居住している集落などでは、生活インフラの維持は深刻な問題であると認識しておりますので、そうした集落について調査を行うなど、課題解決に向けた迅速な対応の必要があると考えております。

道路の適切な管理が結果として災害の防止につながることは、議員ご指摘のとおりでございますので、今後は維持管理体制の見直しや、土砂などの撤去作業のあり方を検討いたしまして、安全・安心な生活環境の確保に努めてまいりたいと考えております。

続きまして、国道492号及び県道254号田方穴吹線の改良促進についてのご質問でございますが、国道492号は災害発生時の緊急避難経路でもあり、美馬市にとり、大変重要な幹線道路と認識をしているところでございます。

議員の皆様を始め、関係者の方々のご協力を頂きながら、徳島県にお願いをいたしまして、改良事業の推進と防災安全対策の実施を図っていただいているところでございます。

現在の整備状況につきましては、穴吹から木屋平までの間に五つの工区を設け、総計画延長約3.3キロメートルの改良事業及び緊急度、危険度の高い箇所への落石対策を実施していただいております。

平成28年度実績といたしましては、4カ所で道路改良を実施し、1カ所で落石対策を実施しております。

平成29年度の計画といたしましては3カ所の道路改良と、1カ所の落石対策を推進す

る予定と県からは聞いております。

昭和51年の災害時のような集落の孤立化を防ぐためにも、改良事業の更なる進捗と通行の安全性の向上のため、落石対策事業の推進を図れるよう今後一層、県に働きかけてまいりたいと、このように考えております。

次に、県道254号田方穴吹線につきましてご説明申し上げます。

議員ご指摘のとおり、この路線の約半分の区間が通行不能となっております、残りの区間も道路幅員が非常に狭くなっており、危険箇所も多々ございます。

県当局もこの現状につきましては十分把握をしており、車両通行可能な区間につきましては、知野地区及び拝村地区の2カ所で、現在、局部改良工事を実施しているところでございます。

また、現在、車両通行不能な区間につきましても、当面の対策といたしまして、安全対策を講じることと、特に危険な区間につきましては新年度予算での計画を検討いただいております。

今後は、議員のご意見の中にもございましたとおり、国道492号の迂回路として、また穴吹川の活用による観光インフラとしての整備、ブルーヴィラあなぶきを核とした周辺対策としての重要性を県又は国に対しましてより一層働きかけを行ってまいりますので今後ともご支援、ご協力の程をよろしくお願いいたしたいと思っております。

◎20番（武田保幸議員）

20番。

◎議長（久保田哲生議員）

20番、武田保幸君。

[20番 武田保幸議員 登壇]

◎20番（武田保幸議員）

ただいま、それぞれの答弁をいただきまして、誠にありがとうございます。

国道492号と県道田方穴吹線についてでございますが、この道路は穴吹木屋平の随一の幹線道路として、また被害時の迂回路として地域住民の生活に極めて重要な役割を果たしております。

今後ともなお、一層改良がかないますよう関係機関に働きかけていただきたいと思います。

また、穴吹川は美馬市の誇るべき自然を生かした観光資源でございます。穴吹川周辺の観光振興を図るためにも駐車場の整備、更に魅力ある観光地作りに取り組んでいただきたいと思いますようお願いを申し上げます。

私からの質問は以上で終わります。答弁は要りません。

◎議長（久保田哲生議員）

次に、議席番号16番、川西 仁君。

◎16番（川西 仁議員）

議長、16番。

◎議長（久保田哲生議員）

16番、川西仁君。

[16番 川西 仁議員 登壇]

◎16番(川西 仁議員)

改めて、おはようございます。

ただいま、議長より一般質問の許可がおりましたので、私も通告をさせていただいておりますので、順次質問させていただこうとは思っているところではございますが、昨日も5人の方々、代表質問そして一般質問、そして今日は先程、質問されました武田先輩と私ということで、今回の3月議会におきましては、7人の者が質問させていただいておるわけでございますが、大分、美馬市議会とおきましても活性化と言いますか、質問も他市、他町に比べて劣ることなく活性化をしておるんじゃないかなと、こういったものが感じるところであります。

そしてまた、昨日は皆さんもテレビに釘付けになっておったんじゃないのかなと思うんですけど、私も昨日、野球の方をちょっと観戦させていただきまして、あのような感じで私もこの質問に臨みたいと思うんですが、なかなか質問の方がうまくいかないかなとは思いますが、私も限られた時間、質問させていただきたいと、このように考えておりますので、お付き合いの程をよろしく願いをいたしたいと思っております。

それでは、質問案件について入らせていただきたいと思います、まずは、私も先程申しましたように、通告をさせておる状況でございます。

1点目といたしましては、平成29年度当初予算につきまして、お伺いをしたいと思っております。そしてまた、要旨といたしましては前年度対比45億円減額予算の内容について、そしてまた新年度予算を見据えて、今後の方針等をお伺いをしたいと思っておりますが、これにつきましては、先と言いますか、昨日、代表質問で剣の会、田中会長さんが質問をされておる中身と少々ガッチングをするかとは思いますが、田中会長さんにおかれましては、財政的な運営状況をお伺いしておるということで、すばらしい質問だったかのように思うんですが、私の方は平成29年度予算の中身、予算について、最終的に財政の方にも取りかかるかも分からないんですが、その辺りはご了承の程をお願いをしたいと思います。

そして、2点目といたしましては、一部事務組合について質問させていただきたいと思っております。これにつきましては、今回の予算にも含まれておるわけでございますが、要旨といたしましては美馬西部消防組合新消防庁舎建設予算、こういったものを踏まえて改めて、一部事務組合の内容についてお伺いをしたいと思っております。そしてその後、一部事務組合についての今後の方針などについてをお伺いをしたいと思っております。

そして3点目といたしまして、脇町第一堤防の完成を受けて、こういったものを質問させていただきたいと思うんですが、これにつきましても、脇町第一堤防につきましては、昨日、相和会の都築議員さんにおかれまして、拝原最終処分場跡地利用の周辺対策、こういった質問がなされておったかのように思います。これにつきましても、最終処分場の跡地利用、そして環境対策についてを質問されたように思うんですが、絵は似通っておるところがございまして、私もその周辺の対策につきましてもお伺いをさせていただきたいわけでございますが、堤防ができた後、その周辺、私の方は堤防のできた辺りの周辺対策とい

うこととお伺いをしたいと思います。

そしてこの堤防ができあがったことによりまして、今後、美馬市におきましても築堤事業がまだまだ完成をされていない所がございますので、そういったところを質問をさせていただきたいと思うんですが、先程、先輩が質問させていただきましたが、やはり後ろから私も見させていただきましたら、やっぱり重圧感というものがございまして、スパッと一発でやられるという、我々若手にはなかなかそういったところができないところがございまして、理事者の各位の皆さんはお付き合いの程よろしく願いまして、質問内容に入らせていただきたいと思います。

藤田市長就任後、初めて手がけられました当初予算編成の一部につきまして、去る2月28日開会の平成29年3月議会の冒頭の所信表明におきまして、ご説明を伺っていたものでございますが、これらの説明につきましては、美馬市の平成29年度の一般会計予算規模につきましては、197億9,200万円というものでございまして、前年度比較をいたしましては45億6,500万円の減になるというものでございまして、これを率にいたしますと18.7%の減というものになるというご説明でございました。

そして前年度と比較をいたしまして、このようなマイナス予算になる編成の仕方につきましては、まさに5年ぶりにあるというご説明であったかのように思います。

これにつきましては、先程も申しましたが、剣の会の田中会長さんの方からも申されましたが、藤田市長就任後、初の独自の当初予算編成ということもありまして、美馬市民はもとより、美馬市関係者や近隣自治体の方々におかれましても、いろいろと注目をされているのではないのでしょうか。

そしてまた、それらを審議させていただきます我々、議員におきましても今回のこの当初予算につきましては、非常に強く関心を寄せていたところでございます。

そうした中、先程も申しましたように、今回美馬市当初予算におかれましては、197億9,200万円というものでございまして、前年度対比45億6,500万円の減とこういうものでございまして、18.7%の減というものでございました。

さて、ここで少し紹介をさせていただきたいものがあるんですが、県内の、美馬市以外の7市につきまして、私なりに少し調べさせていただいたものをご紹介をさせていただきたいと思います。

まず、県内のトップレベルの徳島市さんにおかれましては、一般会計968億9,000万円というものでございまして、これを率にいたしますと前年度比3.0%の増というものでございました。そして、前年度が骨格予算ということも伺っておりますが、これは徳島市さんにおかれましては、過去最大級の予算ということの発表がございました。

次に、阿南市さんにおかれましては、一般会計337億6,000万円でございまして、率にいたしまして8.2%の減というものでありましたが、これにおきましても2006年度以降、5番目、阿南市さんの内容では5番目の数値というものでございます。

続きまして、小松島市さんにおかれましては、一般会計155億700万円で、率に当たりましては0.5%の増というもので、これも小松島市さんの内容におかれましては、過去最大で2015年度に次ぐ規模であるということでございます。

そして、鳴門市さんにおかれましては、一般会計229億5,000万円で、率にいたしまして8.3%の減、こういうものでございまして、鳴門市さんにおかれましては4年ぶりのマイナス予算というものが表示をされておりました。

以上が県内で元々市でありました4市をご紹介をさせていただきました。これに併せまして近隣の3市の中身についても少しふれさせていただきたいと思います。

まず、お隣の吉野川市さんにおかれましては一般会計222億1,100万円で、前年度対比11.6%の増、こういったものがございまして、これにおきましては、吉野川市さんにおかれましては合併後最大規模の予算、こういったものでございました。

続きまして、阿波市さんにおかれましては一般会計175億7,900万円というものでございまして、これも率にいたしますと、0.1%減というものでございまして、ここにおかれましては来年度市長選挙を控えた骨格予算というものでございました。

そして、最後に三好市さんにおかれましては一般会計243億6,451万円というものでございまして、これを率にいたしますと0.9%の増と、こういったものでございました。

以上が、県内7市の平成29年度当初予算の規模と、その予算の前年度対比をご紹介をさせていただいたものでありますが、各自治体によりまして様々な内容により、こういった予算ができあがったものでありますので、これらと比較をするというものでは全くございませんが、これらを参考にして、我が美馬市の平成29年度当初予算につきましてを検証させていただきたいものでありますが、他市とは大分違った内容になっておられるわけでございます。

前年度比、18.7%の減というものは県内の他市でもなかなか見受けられないところではございますが、これらを踏まえて、まずはお伺いをするものでございますが、前年度比45億円の減額をされたこの予算の中身について詳しくお伺いをしたいと思います。

それでは、次の一部事務組合についてをお伺いをしたいと思います。この一部事務組合につきましては、先般開かれまして一部事務組合の組合議会におかれまして、美馬西部消防組合の新庁舎建設予算、こういったものが可決をされた、こういった報道がなされたわけでございます。

これを受けまして、今議会に提案をされております議案第37号 平成29年度美馬市一般会計予算の中で、消防費につきましては、これにつきまして前年度比28.1%増えている、増の中身といたしましては9億9,485万1千円を今回計上をされておられるわけでございます。

これは美馬市の消防費の予算でありますので、当然、美馬市消防そして一部事務組合組織であります美馬西部消防組合への予算が盛り込まれておるものでございますが、今回の前年度対比の28.1%増になるという大部分は、ただいま申しました美馬西部消防組合新庁舎建設予算の大部分が含まれてあろうかと推察できるところでございます。

私は、この一部事務組合につきまして、去る9月議会にも一般質問をさせていただいたものでございますが、この時の質問におきましては、一部事務組合のあり方についてで、この中身といたしまして一部事務組合の現在の状況、そして次に一部事務組合を解散する

手法、そして最後に美馬西部学校給食センター組合の解散についてを順次質問させていただいたものであります。

美馬西部学校給食センター組合につきましては、美馬西部学校給食センターの建て替えにおきましての議論が生じたものでございまして、美馬市におかれましては一部事務組合方式から市の直営方式へと見直すという考えで、これに伴います一部事務組合の見直しも生じてくるであろうというご回答であったかのように思います。

そしてまた、この時、美馬西部共立火葬場組合、こういったものの問題も指摘をさせていただいたものでございますが、この組合につきましてはすでに建て替えをし、運営が始まったばかりで、地域的なねじれを持ったままの運営状態のスタートではなかったかな、こういった感がするところであります。

これらの一部事務組合の中身につきましては、合併前からの引き継ぎによります、いわゆるねじれの現象、これをいまだに解消されることなく運営をされているものであります。先にも述べさせていただきましたように大きなねじれ、これを持ったまま施設を建て替え、そのねじれをそのまま引き継ぎ、そのまま運営をしている美馬西部共立火葬場組合のような例もある中で、今回の美馬西部消防組合新消防庁舎建設予算を踏まえさせていただいて、まずはお伺いをするものでございますが、1点目といたしまして、美馬西部学校給食センター組合の解散に向けた進捗状況、これがどのようなものになっておられるかを改めてお伺いするわけでございます。

そしてまた、2点目といたしまして美馬西部消防組合新消防庁舎の建設計画についての、この2点につきましてをお伺いをしたいと思っておりますのでよろしくお願いをいたしたいと思っております。

それでは、第3点目の脇町第一堤防の完成を受けてをお伺いをしたいと思っております。

脇町第一地区堤防におきましては、昭和48年に国土交通省によります事業に着手をされまして、平成3年度までに下流域360メートルを残し、期成ということになりました。

ご承知のとおり、これにつきましては廃棄物処分があったため、下流域の360メートルがストップをされたということでございました。

この問題におきましては、歴代の旧脇町町長の皆さんが取り組んでこられました。なかなかこれに着手する、できる方がいなかったものが現状としております。

その後、平成の大合併の後、美馬市が誕生いたしまして、その初代市長に就任をされました牧田市長を始めといたします美馬市の皆様方によりまして、この廃棄物処分に関しまし委員会を設置をされまして、この問題に取り組み出したのが平成18年頃であったかろうように思います。その後、平成21年に新規処分場の建設と廃棄物の全量撤去が開始をされまして、この廃棄物の撤去によりまして、平成23年より、この脇町第一地区堤防の整備事業が再開ということになりまして、平成28年度の堤防の完成と、こういった運びになってきたように思います。

そしてこの堤防整備に係ります工事が完了をいたしたところでございます。

そして先月、我々26日には、我々も脇町第一地区堤防の竣工式に呼ばれまして、これが盛大にとり行われたところでありました。

この築堤事業につきましては、吉野川の水が増水した折に、地域住民の安全と安心を守るために、国へ要望をし、堤防の整備を図ってもらったものでございます。

これにつきましては、先程も申しましたが町村合併前からの長年の懸案事項でございまして、地域の方々の悲願でございました。この事業が完成することによりまして地域の更なる発展を期待するところであります。

さて、こういった事業の流れの下、地域の皆様方の悲願でありましたこの堤防が完成をし、吉野川が増水によります地域住民の生命と財産を守るもの自体は完成したものでございますが、この堤防によります周辺の影響を考えた周辺対策についてを3点目としてお伺いをしたいと思っておりますので、よろしくご答弁の程、お願いを申し上げます。

ご答弁によりまして、再問とさせていただきますので、ご答弁の程を切にお願いを申し上げます。

◎市長（藤田元治君）

議長、市長。

◎議長（久保田哲生議員）

藤田市長。

[市長 藤田元治君 登壇]

◎市長（藤田元治君）

16番、川西仁議員からの一般質問の中で、私からは平成29年度当初予算について、前年度対比45億円の減額となった内容について、お答えをさせていただきます。

私は市政運営に当たり、「現状打開・未来への挑戦」をスローガンとして掲げておりますが、平成29年度当初予算は限られた財源の中で、各種事務事業の内容を厳しく精査をしたことにより、一般会計の予算総額といたしましては197億9,200万円と前年度を大きく下回る規模となりました。減額となった大きな要因は、拝原最終処分場適正処理事業や、美馬地区統合小学校建設事業が終了したことと、また地域交流センター整備事業費の減などがありますが、私は一般会計の予算総額を200億円未満に抑制するという数値目標を予算編成方針の重要なポイントとして掲げてまいりました。

そのため、前例踏襲からの脱却による歳出構造の見直し、事業の選択と集中による積極的なスクラップアンドビルド、そして一層の歳入確保への取り組みなどを基本として、編成作業を進めるよう指示を行ったところであります。

そして、予算査定におきましては、社会資本整備、交付金事業などの各種普通建設事業につきましては、確実な財源確保や費用対効果など、その内容を精査するとともに生活保護費などの扶助費やその他の経常的な経費につきましても、過去の実績だけではなく、ゼロベースから積算されているかなどと厳しくチェックを行ったところでございます。

平成29年度の一般会計予算につきましては、大型事業の終了や事業費の減額などが大きな要因ではありますが、歳出削減に向け、不断の取り組みを行ったことにより、前年度と比較して約45億円、率にいたしますと18.7%という大幅な減額予算となったものでございます。

◎議長（久保田哲生議員）

加美政策監。

[政策監（企画総務部長） 加美一成君 登壇]

◎政策監（企画総務部長）（加美一成君）

私の方からは、一部事務組合についてお答えをさせていただきます。

ご質問のございました二つの一部事務組合についてでございますが、まず、美馬西部学校給食センター組合につきましては、既存施設の使用を終了する時期を見計らい、つるぎ町と解散に向けた協議を進めてまいります。

今後の工程につきましては、昨年10月19日に、つるぎ町と協議を行い、共通の認識のもとに進めることを確認をいたしておりますが、新施設の操業開始は平成31年4月からの予定と伺っております。従いまして、解散の時期につきましては、現段階では平成31年3月末日と見込んでおりますが、この対応につきましては引き続き、つるぎ町と協議を進めてまいります。

また、平成31年度以降における美馬小学校及び美馬中学校の学校給食への対応につきましても、万全を期する必要があるため、この取り組みにつきましても遺漏のないよう準備を進めていくことにいたしております。

次に、美馬西部消防組合についてであります。新消防庁舎の建設工事予算は全体で4億8,895万4千円でありまして、このうち本市の負担額は2億3,697万5千円となっております。

美馬市とつるぎ町の負担金につきましては、均等割5%、平成27年国勢調査による人口割95%をもとに積算をされておきまして、本市の負担割合は48.7%となっております。

なお、工事の発注に向けましては、現在、美馬西部消防組合におきまして入札の準備を行っているところでございまして、平成29年度末の完成を予定をしているところでございます。

◎経済建設部長（奥村敏彦君）

議長、経済建設部長。

◎議長（久保田哲生議員）

経済建設部長、奥村君。

[経済建設部長 奥村敏彦君 登壇]

◎経済建設部長（奥村敏彦君）

続きまして、私からは脇町第一箇所堤防の完成を踏まえた周辺対策は、という質問にお答えをいたします。

脇町第一箇所堤防の完成は、地域の人々が40年以上も待ち望んだ長年の悲願でございましたが、本年1月に完成し、2月26日に完成式典を行ったところでございます。

この地区には、土井谷川の流末が吉野川へと合流しておりますが、過去に幾度となく浸水被害にあっており、平成16年の台風23号では、床上、床下併せて55戸の浸水被害が発生をいたしております。

このため、今回の堤防完成により、国土交通省は今後、大雨の時に内水が地域にどのよ

うな影響を与えるか、検証を行いながらさらなる対策が必要かどうか判断を下すと伺っております。

市といたしましても、内水対策といたしまして、県や国土交通省に排水ポンプ場などの設置要望を続けているところで、平成27年度には土井谷川総合内水緊急対策協議会設立準備会、これを立ち上げまして、問題解決に向けた協議を行ってきたところでございます。

また、平成28年度には徳島県が作成している吉野川水系美馬圏域河川整備計画の中に土井谷川が指定をされました。

土井谷川は過去に改修工事を行っており、昭和40年に着手し、昭和53年に暫定完了をしております。今回再度、整備計画を樹立したことによりまして、抜本的な河川改修計画がなされ、河道拡幅などが計画されておりますので、流下能力が向上することと期待をしております。

それぞれの立場で、こうした様々な対応を進めることにより、内水問題が解決できるよう粘り強く取り組んでまいりたいと考えております。

一方、徳島県が実施しております県道鳴門池田線バイパス道路につきましては、おおむね整備は終えているものの、一部用地につきまして、未取得の区間があるため、早急に用地取得を済ませ、早期の完成を目指すとしております。このバイパスが完成すれば脇町地区の基幹道路となり、その沿線には商業施設等の進出や宅地化も見込まれますので、豊かな住環境が創出されるとともに、地域の更なる発展が期待されるところでございます。

◎16番（川西 仁議員）

議長、16番。

◎議長（久保田哲生議員）

16番、川西仁君。

[16番 川西 仁議員 登壇]

◎16番（川西 仁議員）

失礼をさせていただきます。賢明なるご答弁をいただき、ありがとうございます。

ご答弁をいただきましたので、再度、再問とさせていただきたいと思いますが、まずは1点目の平成29年度当初予算につきましてでございますが、この中身につきまして、前年度対比45億円、この減額予算の内容につきましてを先程お聞きしましたところ、ご答弁をいただいたものでございますが、平成29年度当初予算に取り組む方針といたしましては、限られた財源の中で各種事務事業の内容、これらを厳しく精査することによりまして、前年度を大きく下回った規模になったというご回答であったかのように思います。

そして、それらの要因につきましては、拝原最終処分場適正処理事業や美馬地区統合小学校建設事業が終了をした、こういったものに加えまして、地域交流センター整備事業費が減額したため、こういった説明であったように思われます。

そしてそれにも増して、まず、市長独自のお考えで、今回の予算総額は、まずは200億円未満にするんだと、こういったものを重要なポイントに置いた今回の予算編成内容というものであったかのように思います。

それらには、前例からの脱却を図るための歳出構造の見直しをし、改めて歳入の確保を

これに努められる、こういった努力をするというものでございました。45億円余りの減額はこれまでの大型プロジェクト事業と位置づけをし、実施をしてこられました拝原最終処分場適正処理事業及び美馬地区統合小学校建設事業、こういったものが終了したものと、地域交流センター整備事業の、この事業費、こういったものが減少が大きな要因となっておりますが、これらに加えまして事務事業の選択と集中を図ったものが、今回の減額につながったものであると、こういった認識をしているところでございます。

前市政で膨らんできました支出に目をつけられ、できる限りこれらに正義をかけ、そしてそれが現在の美馬市に必要なものであるというものが藤田市長の判断であったのだろう、こういったところを考えさせられたものでございます。

例えば、先の質問でご紹介をさせていただきました徳島市さんにおかれましては、徳島市の市長さんにおかれましても、美馬市と同様に初めての当初予算編成というものでございますが、規模と内容こそは異なりますが、初の当初予算編成というところでは同じようなところではありますが、取り組み方が、我が美馬市とは若干のずれが生じておるように見受けられるところでございます。

あくまで、徳島市さんを評価するものではございませんが、美馬市の当初予算の内容を判断をさせていただくに当たりまして、参考にさせていただきますなら、徳島市さんにおかれましては、この徳島市さんのやり方は少子化、人口減少対策、防災対策、地域活性化、こういったものの3本柱に重点に配分をし、子育て支援や教育環境の充実、観光交流、これらの促進に力を注ぐ予算の配分に力を注いでおるようでございます。

前施策に転換する施策に加え、独自カラーによります施策に伴ったものに加え、新設の公共工事などが重なったことが要因となりまして、一般会計968億9,000万円というものでございまして、先程も申しましたように、前年度対比3.0%の増と。こういったものが徳島市さんにおかれましては、過去最大規模の予算になっておられるみたいでございまして。

美馬市におきましては、それとは違ったもので、先の質問答弁にもあったように、大型プロジェクト事業の終了や現在進行中の事業の事業費が減額になっているということのもので、二つの市で、2人のトップの考え方がこうも施策に打ち出されるのか、大分感心をさせられたところでございます。

さて、美馬市の当初予算が45億円減額になった内容につきましては、それに当たって藤田市長のお考え等が、美馬市の考え方がよく分かったところではございますが、平成29年度当初予算につきましては、197億9,200万円が美馬市の当初予算の中身でございまして、歳出削減に向けた不断の取り組みを行って、今回提案をされたと先程もお伺いしたわけでございますが、平成29年度当初予算として、特に重点的に取り入れた事業についてを再問とさせていただきたいと思っております。

続きまして、2点目の一部事務組合について再問させていただきたいと思っております。

美馬西部消防組合新消防庁舎建設予算を踏まえまして、1点目の美馬西部学校給食センター組合の解散に向けた進捗状況につきましては、この施設の使用の終了に併せたものを見計らい、解散に向けました協議をつるぎ町と進めているものでございまして、その工程

といたしましては、昨年度協議での共通認識のもとに進められておるもので、これらを判断をしていけば平成31年3月末日を解散の時期、こういった説明であったかのように思います。

そして、解散後の美馬市内の小・中学校の学校給食への対応につきましては、万全の体制で臨んで行かれる、こういったご説明であったかのように思います。

そしてまた、2点目といたしまして、美馬西部消防組合新消防庁舎の建設につきましては、この調査の建設工事予算につきましては、全体費用といたしましては4億8,895万4千円というものでありまして、この金額の中の美馬市の負担といたしましては、2億3,697万5千円が美馬市の負担というものでございました。

そして、この負担金の内訳といたしましては、均等割が5%で、そして人口割が95%、これをもとに積算を行いますと美馬市におきましての負担割合の率というものは48.7%というご説明であったかのように思います。

1点目の美馬西部学校給食センター組合につきましては、施設の終了に併せた解散に向けた対応に進められているとの同時に、市内の学校給食の取り組みについても遅れのないような進行の仕方に配慮をしておられる、こういったところがよく分かったものでございますが、2点目の美馬西部消防組合建設建て替え予算の負担割合が、均等割合5%で、人口割95%をもとに積算をいたしますと、先程も申しましたように美馬市が48.7%の負担ということのご説明でありましたが、言うまでもありませんが、この人口割につきましては、美馬西部消防組合が管轄する地域内の人口というものでございまして、この組合の所管のエリアにつきましては、つるぎ町と美馬市美馬町と、こういったものでございます。

私は、この現況の負担割合が悪い、いけない、こういった意味の質問ではございません。そういったものじゃなくて、この負担率と近年の人口の減少率から考えさせていただきますと、美馬市美馬町地域の人口減もさることながら、お隣のつるぎ町さんの人口減が加速を増しているような状況ではないでしょうか。近い将来、人口の逆転現象が生じてこようかと考えられますが、現在の状況ではつるぎ町が所管といたします美馬西部消防組合消防本部において、美馬市の美馬地区を引き続きお願いをする、こういったものになるかと考えられますが、市民の安全・安心を守るために、美馬市消防本部と美馬西部消防組合消防との間にどのような連携があるのか、そしてまた応援体制などが構築をされておられるのか、こういったまずは中身の方、そちらの連携体制の中身の方を、詳しくお伺いをしたいと思います。

それでは最後に3点目といたしまして、脇町第一堤防の完成を向けてについてをお伺いをいたしたいと思います。これにつきましては、脇町第一地区堤防の完成を踏まえた周辺対策につきましては、先程この地域には土井谷川の流末が吉野川と合流をしており、過去におきまして浸水被害が発生している状況でございまして、今回の堤防を完成により、大雨の時の内水の影響を国土交通省が検証を行い、判断を下すというものでございました。

そして市といたしましては、内水対策としては、県や国土交通省へ排水ポンプ場の設置要望を続けておられるというところで、土井谷川総合内水緊急対策協議会設立準備会等を

立ち上げ、この問題、この協議を行っているということでございました。

そして、徳島県が作成をされる吉野川水系美馬圏域河川整備計画に土井谷川は、これ自体が指定をされまして、今回整備計画が樹立をされることによりまして、抜本的な河川改修計画がなされまして、河道幅幅を計画をされておりますので、流下能力の向上に期待をしておるといふご説明であったかのように思います。

そしてまた、県道鳴門池田バイパスの道路につきましては、おおむね整備は終えているものの、用地の未取得区間があるため、早急な用地取得を済ませていただき、早期の完成を目指していただく、こういったご説明であったかのように思います。

この脇町第一地区堤防を完成するに当たりまして、先の質問でも述べさせていただきましたが、これを建設するところに廃棄物があり、これを処分することにより、地域住民との摩擦が生じ、大変紛争が起こったことを記憶をしているものでございますが、こうした時に地域住民の方々からこの紛争時の時に、地域の住民の方々からの意見といたしましては、廃棄物の撤去とこの堤防の完成と、そしてこの堤防によります内水排除のための土井谷川樋門に対しますポンプ場の設置は、必須要件のように考えられておったかのように思っているのは私だけでしょうか。

そして、現在進行中であります、県道バイパス鳴門池田線が完成することによります北側におきまして、このバイパスで北側は仕切られまして、そしてまた南側手には今、しゃべらしていただいております脇町第一地区堤防が完成をし、北側手のバイパスと南側手の堤防で囲われました、その中には新処分場の山がございます。そして、この山の一番下流域には、檜ヶ丘育成園という弱者を引き受けられておる、こういった施設があるのは皆さんご承知のとおりではございますが、こういったものを踏まえて、再度質問をさせていただきたいわけではございますが、こういった施設もあつたり、こういったごみの山があつたり、そして堤ができて、バイパスができて、そういったところを囲われてる中、こういったところに内水がたまろうかと、こういったものの不安が、考えがあるわけではございますが、こういったところを踏まえまして、ポンプ場の早急な整備はできないのかを、再度伺いをいたしまして、再々問とさせていただきますので、よろしくお願いをします。

◎市長（藤田元治君）

議長、市長。

◎議長（久保田哲生議員）

藤田市長。

[市長 藤田元治君 登壇]

◎市長（藤田元治君）

16番、川西仁議員の再問の中で、私からは平成29年度当初予算の中で特に重点的に取り入れた事業についてお答えをさせていただきます。

平成29年度当初予算につきましては、これまで膨らんだ予算規模を抑制することを第一に捉え、事務事業の見直しを行う中で、子どもたちの健やかな成長を支援するための施策を重点として、予算編成を行ったところでございます。

この中でまずは、英語教育推進事業でございますが、これは小学校の英語教育につきま

して、3年後の2020年度からは小学校3年生から必修化及び小学校5年生から教科化が完全実施されますことを受けまして、新たに外国語教育指導監を配置するものでございます。この外国語教育指導監に小学校教諭に対する英語教育の指導教育を行っていただくことで、英語教育に対する教諭の不安を解消するとともに、適切な英語教育の実施を目指すものでありまして、従来より配置をしておりますALT、外国語指導助手や外国語活動支援講師による英語授業、また就学前児童に対する英語教育と併せまして、就学前から中学校終了までの切れ目のない英語教育を実施してまいりたいと考えております。

次に、美馬市産米給食推進事業でございますが、これは学校給食における美馬市産米の活用を進めるため穴吹学校給食センターや各調理場に対しまして、美馬市産の米を現物で支給するものでございます。この事業を実施することにより、地産地消の活性化を促し、食育活動の推進を図るとともに、質の高い給食の提供につなげ、まずは県内一おいしい学校給食、そしていずれは日本一を目指してまいりたいと考えております。

また、ハード事業といたしましても、穴吹地区認定こども園の整備に取り掛かることにしており、当初予算に設計委託料を計上しております。この整備に向けましては、今後用地購入費、建設事業費、順次予算計上いたしまして、平成31年4月の開園に向けて作業を進めるとともに、その運営のあり方につきましても、様々な角度から幅広く検討してまいりたいと考えております。

当初予算におきましては、美馬市の将来を担う子どもたちのための取り組みを重点として、予算計上を行っておりますが、この他に「農林業・伝統工芸・観光連携推進事業」や「若者UIJターン就職・定住事業」、「リーサス活用普及事業」など地方創生に向けた各種事業にも積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

#### ◎消防長（武田浩二君）

議長。

#### ◎議長（久保田哲生議員）

武田消防長。

[消防長 武田浩二君 登壇]

#### ◎消防長（武田浩二君）

続きまして、私の方からは美馬市消防本部と美馬西部消防組合との間にどのような連携や応援体制が構築されているのか、との再問にお答えさせていただきます。

美馬市には、脇町地区、穴吹地区及び木屋平地区を管轄する美馬市消防本部と本市の美馬地区とつぎ町を管轄する美馬西部消防組合消防本部の二つの消防本部がございます。市内に二つの消防本部が存在するという特殊な状況ではありますが、市民の安全・安心を守るとともに、複雑多様化する消防需要に対応していくためには、情報共有や指示命令系統の一元化など、二つの消防本部が一体となった消防体制の構築が必要となっております。

そこで、美馬市消防本部と美馬西部消防組合は双方の連携をなお一層強化し、消防のサービスの高度化を図るために、高機能消防指令システムと消防救急デジタル無線を共同で整備し、平成26年10月から美馬地区消防指令センターとして運用を行っております。

この指令センターにおいては、二つの消防本部からの管轄内からの119番通報を一括

受信するとともに、災害などに応じて、消防車両や救急車の出動指令を美馬市及びつるぎ町の各署所で行うなど、リアルタイムな情報の共有と効率的な活動支援を行っているところでございます。

次に、消防応援体制についてであります。消防組織法第39条の規定に基づき、徳島県内の13の消防本部は広域消防相互応援協定を締結しており、大規模災害や管轄境界付近で発生した火災、救急、救助などの災害で、応援が必要な場合には管轄する消防本部からの応援要請に基づき、迅速に出動するよう定められております。

この協定に基づき、美馬市消防本部におきましても、応援が必要な災害や管轄境界で発生した災害などでは、応援出動を行っております。

特に、美馬市消防本部と美馬西部消防組合は指令センターを共同運用していることにより、災害事案や場所、緊急車両の動態などが、一元的に把握でき、どちらかの消防本部での多重事故発生時や災害などが重なった場合においても、迅速かつスムーズな応援体制が構築されているところでございます。

美馬市消防本部といたしましては、美馬西部消防組合との連携をなお一層図ることにより、市民の皆様の安全・安心にさらなる向上に努めてまいりたいと考えております。

◎経済建設部長（奥村敏彦君）

議長、経済建設部長。

◎議長（久保田哲生議員）

経済建設部長、奥村君。

[経済建設部長 奥村敏彦君 登壇]

◎経済建設部長（奥村敏彦君）

私からは市内の築堤計画は、またポンプ場の早急な整備ができないかについての再問にお答え申します。

今後の築堤の計画につきましては、美馬町の沼田地区が計画されております。この地区もこれまで幾度となく、洪水被害が発生してまいりました。

脇町第一地区と同様に平成16年の台風23号では、床上浸水4戸、床下浸水11戸の甚大な被害に遭い、その後も平成17年、23年、26年と床上浸水の被害が頻発しております。

こうしたことから、美馬市といたしましても、地元の要望を受け、沼田地区の築堤に向け国土交通省に対しまして、要望活動を行ってまいりました。

また、徳島県や関係機関と連携し、吉野川上流大規模氾濫に関する減災対策協議会を平成28年5月に設立し、計画を推進しているところでございます。

国土交通省によりますと、現在の進捗状況は平成25年度に測量に着手し、平成27年度で詳細測量を終えたところと伺っております。

28年度は脇町第一地区堤防完成のために、予算が同地区に重点配分されたことにより、予算がついておりませんが、29年度は予算が計上されることを期待しているところでございます。

これからも沼田地区堤防の早期完成に向け、要望活動を進めるとともに、美馬市で残る

最後の無堤地区、脇町第三地区につきましても早期に着工していただけるよう努力してまいりたいと考えております。

いずれにいたしましても、土井谷川流域につきましても、内水被害に対して要配慮者利用施設に入所されている、いわゆる災害弱者の方や地域住民の強い不安がありますことから、沼田地区築堤がある程度が目途が立てば、国土交通省へポンプ場設置要望を強く働きかけてまいりたいと、このように考えております。

◎16番（川西 仁議員）

議長、16番。

◎議長（久保田哲生議員）

16番、川西仁君。

[16番 川西 仁議員 登壇]

◎16番（川西 仁議員）

失礼をいたします。再問によるご答弁をいただきまして、誠にありがとうございます。

ご答弁をいただきまして、最終のまとめ、再々問とさせていただきたいと思っております。

まずは、平成29年度当初予算につきましてでございますが、この平成29年度当初予算におきましては、この予算の特に重点的に取り入れられた事業につきましては、まず当初予算編成に当たりましては、これまでに膨らんでこられた予算規模、こういったものの抑制を第一に考えをされ、そうした見直しを行った中で、子どもたちの健やかな成長を支援をされる施策、こういったものに重点をおかれたというものでございました。

そしてこれにつきましては、昨日の質問でも取り上げられておりましたが、英語教育推進事業を取り入れ、小学校での英語教育を見据えた外国語教育指導監の配置を検討する、こういったものでございました。

そしてこれは小学校教諭に対しての英語教育の指導教育を行うもので、2020年度より全面実施予定の英語教育を見据えたものであるというものでございました。

また、市内の学校給食におけます美馬市産米の給食推進事業にも取り組みをされ、地産地消の活性を促し、質の高い、そして県内一おいしい学校給食を目指したいというものでございました。

そしてまた、ハード面におかれましては、穴吹認定こども園の整備に取り掛かる、こういったものにおかれまして、前年度に整備に当たりたい旨の説明もあったかのように思われましたが、今年度にはいよいよ設計委託料を計上をするというものでございました。

そして、平成31年4月の開園に向けて、順次進めていくことと同時に運営についても検討をしていかれるというものでございました。

5年ぶりの緊縮型の予算ということと、縮小しました額があまりにも大きかったのも、前市政の膨らみました支出を抑制することだけに力を注いでおられるのではなく、しっかりと美馬市の現状と未来を考えられました予算の編成であるということに確信を持たないように考えられるところではございますが、こうした予算を踏まえまして、再度お伺いをするものでございますが、今回のこの新年度予算を見据えさせていただきまして、今後の方針につきましても、どのような考えがあらわれるのか、最後にお伺いをしたいと思います。

す。

そして、一部事務組合につきましては、市民の安全と安心を守るための美馬市消防本部と美馬西部消防組合との連携や応援体制につきましては、市内二つの消防本部があるという特殊な状況を踏まえながら、市民の安全と安心を守るために、二つの消防本部が一体となりまして、消防体制の構築を図られているということでございました。その内容は高機能消防指令システム、また消防救急デジタル無線などを共同で整備をし、美馬地区消防指令センターの運用開始をしており、二つの所管内からの通報を一括受信を行い、消防、救急の車両を美馬市、つるぎ町、二つのところで出動指令を各署でリアルタイムな情報の共有と効率的な活動支援を行っておられるということでございました。

そして応援体制につきましては、消防組織法に基づきました広域消防相互応援協定の締結によりまして、あらゆる災害での応援の必要な場合につきましては、管轄をされる消防本部より応援要請に基づき迅速に出動されている、こういったものでございました。

特に美馬市消防本部と美馬西部消防組合の二つの指令センターの共同運用によりまして、災害の場所や車両の動きなどが一元的に把握できるようになっており、災害などが重なった場合においても、迅速でスムーズかつ応援体制が構築をされている、こういったご説明でございました。

市内消防本部が二つも存在するという極めて異常な体質ではございますが、市民の安全と安心を守る、これにつきましては逆に上手に利用をされておられるということが分かったところではあります。いつまでこういったねじれの現象が続くのでしょうか。先の質問でも述べさせていただきましたが、美馬西部消防組合の本拠地の人口より、美馬地区の人口が将来的に増加してくるにも関わります。また、地域的な解消されることなく、このまま建設、施設は建て替えられ、引き続き運営されていかれるのでしょうか。

そしてまたこれらの組織につきましては、他の組合についても存続をしているものがありますが、これらについても問題点を抱えられているところがあるということも踏まえさせていただきます。最後にお伺いをするものでございますが、一部事務組合の全体の今後の方向性についてを最後にお伺いをしたいと思います。

そして、脇町第一地区堤防の完成を受けて、この市内におけます築堤計画におきましては、美馬町の沼田地区と脇町第三地区がありますが、美馬町の沼田地区につきましては、脇町第一地区と同様に床上浸水被害が頻発しており、地元から要望もあり、国土交通省へ要望活動を行い、徳島県関係と連携をし、吉野川上流大規模氾濫に関する減災対策協議会を設立をし、この計画を推進されているということでございました。

現在の進捗状況では詳細測量が終わったということでございました。

そして、この沼田地区の築堤がある程度進めば国土交通省にもポンプの要望ができるということでございましたが、いささか納得のしにくいことではございませんでしょうか。沼田地区の堤防につきましては、脇町第一堤防の完成によりまして、順番はそちらの方がやっつけていかれるというものでございますが、土井谷樋門に関しますポンプ場につきましては別なものと考えなければならない、そう位置づけなければごみ問題との摩擦が生じてくるんじゃないのでしょうか。

市内に残されました築堤につきましても、優先的に行っていかなければならない状況ではございますが、今一度検証の余地があるのではないのでしょうか。

少し強めに忠告したところで、この周辺対策の一つの土井谷川改修の時期と県道バイパスの完成予定、そしてこれらの市の財政負担があるのかどうかを最後にお伺いをして、私の質問とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いをいたします。

◎市長（藤田元治君）

議長、市長。

◎議長（久保田哲生議員）

藤田市長。

[市長 藤田元治君 登壇]

◎市長（藤田元治君）

16番、川西 仁議員からの再々問の中で、私からは新年度予算を見据えて、今後の方針と一部事務組合の今後の方向性についてお答えをさせていただきます。

まず、新年度予算を見据えての今後の方針についてでございますが、平成29年度当初予算は大型事業の完了などによりまして……。

◎議長（久保田哲生議員）

答弁者に申し上げます。先例の中で、答弁含めて60分以内ということになっておりますけれども、議長判断の中で答弁をいただく必要があると思われまますので、引き続きよろしくお願いをいたします。

◎市長（藤田元治君）

それでは、引き続き答弁をさせていただきます。

まず、新年度予算を見据えての今後の方針についてでございますが、平成29年度当初予算は大型事業の完了などにより、5年ぶりに前年度を下回る予算編成となりましたが、それでも本市の当初予算規模としては3番目に大きいものとなっております。今後の予算規模につきましては、その年度の事業費や国の経済対策等によりまして、一概には判断できないところではございますが、大型事業や公債費が抑えられていた平成24年度以前、180億円未満を目標として可能な限り基金に依存しない財政運営を目指してまいりたいと考えております。

その一方で、合併特例事業債や過疎対策事業債などの有利な財源が活用できる期間におきましては、認定こども園の整備など、各種普通建設事業にも取り組んで行かなければなりません。

こうした中で維持管理費の削減や、自主財源の確保という観点から、老朽化した公共施設の解体撤去事業につきましては、合併特例事業債の活用期限であります平成31年度までに可能な限り取り組んでまいりたいと考えております。

また、美馬市の将来を担う子どもたちへの投資や、若者を中心とした人口流出を防ぐための各種施策、コールセンターやデータセンターなどを含む企業誘致の促進、さらには滞在型観光の推進を始め、関係者が一体となって観光地づくりを進める美馬市版DMOの構

築などを通じまして、儲かる観光の推進を図ってまいりたいと考えております。

今後の財政運営はこれまで以上に厳しさを増し、極めて困難なかじ取りが求められておられますが、現在策定しております中期財政計画との整合性を図りながら、計画的な事業展開を行うとともに、費用対効果などを絶えず検証するなど、行政全般にわたる不断の見直しを行ってまいります。引き続き、選択と集中を基本として、「美来創生のまち美馬市～一歩先の確かな未来へ～」、この実現に向けましてしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

次に、一部事務組合の今後の方向性についてであります。美馬西部学校給食センター組合が解散となりますと、本市とつるぎ町で構成する一部事務組合は7組合となりますが、この七つの組合につきましては、当面共同事務を継続してまいりたいと考えております。

こうした中、吉野川環境整備組合につきましては、吉野川浄園し尿処理場早期移転促進期成同盟会との間において、平成30年3月31日限りで、吉野川浄園し尿処理施設を閉鎖し、速やかに処理施設を撤去して、他に移転するという協定書が締結されております。

これまでの経過といたしましては、和解条件の厳守及び施設の移転の実現に向けまして、最大限の努力をしておりますが、し尿の広域処理や移転先の用地選定等に有効な打開策が見出せず、現在に至っております。

今後、施設の移転に向けましては、建設用地の選定やし尿処理計画策定業務等にしっかりと取り組んでまいりたいと考えておりますが、移転が完了するまでの間は地元同盟会の皆様に格段のご高配を賜りたいと考えております。

なお、一部事務組合の方向性についてでございますが、平成27年度に策定した美馬市行財政改革指針におきましては、引き続きつるぎ町との協議により、必要な見直しを進めていくと定めております。

現在継続中の一部事務組合のできた当時、当時の社会情勢と現在の社会情勢は大きな変化がございます。特に平成17年の町村合併では、大きな変化をもたらしているのが現状であります。そして現在も、少子高齢化による人口減少問題や、急速に発展する情報化社会と、目まぐるしい変化をしているのが現状であり、時代のニーズ、住民ニーズをしっかりと把握し、誤った判断をすることなく、適切に進めてまいりたいと考えております。

なお、現在継続中の一部事務組合で行っております、共同事務のあり方につきましても、今後ともつるぎ町と協議を重ねながら、より良い方向性を検討してまいりたいと考えております。

◎経済建設部長（奥村敏彦君）

議長、経済建設部長。

◎議長（久保田哲生議員）

経済建設部長、奥村君。

[経済建設部長 奥村敏彦君 登壇]

◎経済建設部長（奥村敏彦君）

私からは土井谷川改修県道バイパス工市の市の財政負担はあったのか、との再々問にお答えをしたいと思います。

土井谷川は県が管理する河川のため、河川改修は県営事業として実施をいたしますので、市の財政負担はございません。

土井谷川の改修の時期でございますが、県にお尋ねをいたしましたところ、できるだけ早い時期に着工したいとの回答でございました。

同様に、県道鳴門池田線バイパス道路の工事にいたしましても、市の財政負担はしておりません。

バイパス道路の完成予定でございますが、現在用地取得のため、国に対して事業認定の申請をしているところであり、完成予定は未定であるとのことでございます。

先程も申しましたが、議員ご指摘の場所は、美馬環境整備組合の新最終処分場が平成28年12月に完成したところでございますので、今後も県や国土交通省へ強く働きかけてまいりたいと考えております。

いずれの事業にいたしましても、美馬市の住環境を豊かなものにしていただける事業でございますので、美馬市といたしましても協力を惜しまず、早期の着工、そして完了をしていただけるよう、これからもしっかりと要望をしていきたいと考えております。

#### ◎議長（久保田哲生議員）

以上で、通告による一般質問は終わりました。

これをもちまして、一般質問を終結いたします。

次に、日程第3、議案第1号 美馬市伝統工芸体験館条例の制定についてから、議案第31号 美馬市産業センター条例の廃止についてまでの31件及び議案第37号 平成29年度美馬市一般会計予算から議案第57号 重清北交流促進簡易宿泊施設の指定管理者の指定についてまでの21件、議案第59号 債権の放棄について、議案第60号 相互救済事業の委託について、議案第64号 平成28年度美馬市一般会計補正予算（第5号）の合わせて55件を一括して、議題といたします。

これより質疑に入ります。

ただいまのところ、質疑の通告がありませんので、質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終結いたします。

ただいま、議題となっております「議案第1号」から「議案第31号」までの31件及び「議案第37号」から「議案第57号」までの21件、「議案第59号」、「議案第60号」、「議案第64号」の併せて55件につきましては、会議規則第37条第1項の規定により、お手元にご配付の議案付託表のとおり、それぞれの委員会に付託いたします。

以上で、本日の議事日程は全て終了いたしました。

次に、休会についてお諮りいたします。

明日10日から3月22日までの13日間、委員会審査及び市の休日のため、休会といたしたいと思っております。

これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

#### ◎議長（久保田哲生議員）

異議なしと認めます。

よって、明日10日から3月22日までの13日間は休会とすることに決しました。

なお、13日の産業常任委員会、16日の福祉文教常任委員会、17日の総務常任委員会の各常任委員会への付託案件等の審議をよろしく願いをいたします。

次会は3月23日午前10時から再開し、委員長報告に引き続き質疑、討論、採決であります。よろしく願いをいたします。

本日はこれをもって散会といたします。

散会 午前11時35分

会議の経過を記載し、その相違ないことを証するためここに署名する。

平成29年3月9日

美馬市議会議長

美馬市議会副議長

会議録署名議員 17番

会議録署名議員 18番

会議録署名議員 19番